

研究ノート

新ニーズ探索型セラミックス商品の開発

倉地辰幸*1

New Needs Research Type Development of Ceramic Products

Tatsuyuki KURACHI*1

Seto Ceramic Research Institute*1

消費者ニーズに即したアイデアセラミックス商品は、企業・業界の活性化に大きく貢献するものとして期待されている。一方、当試験場は蓄光粘土を用いた成形・加飾技術に関連したユニークなシーズを有している。そのため、本研究では、時代とともに変化する消費者ニーズを的確にとらえ、蓄光粘土を用いた成形・加飾技術を活かした新規な商品の開発、高付加価値な商品開発を試みた。

1. はじめに

陶磁器産業には、その長い歴史と伝統の重みから、急激な変化を望まない、独自の手法・製法に拘りを持つといった例が見られる。

このような、伝統産業に散見される心情は、商品の魅力と密接な関係にあるため疎かにすべきではない。しかしながら、時代とともに消費者の嗜好も常に変化中、新しい時代に向けてのチャレンジも、求められていることを忘れてはならない。特に、消費者ニーズに即したアイデアセラミックス商品は、企業・業界の活性化に大きく貢献するものとして期待されている。

一方、当試験場は蓄光粘土を用いた成形・加飾技術に関連したユニークなシーズを有しており、これまでにない新規な商品の開発、他産地商品との差別化など、高付加価値な商品開発に寄与できる。

このため本研究では、各種セラミックス商品について、シーズ活用等の視点から、人気商品となり得るような新規なセラミックス商品、高付加価値化を図った商品の開発を試みた。

2. 実験方法

2.1 新規な蓄光セラミックス宝石の開発

天然の宝石は、その美しさのみならず、希少性も大きな魅力の一つである。一方、人工物である蓄光セラミックス宝石は、例え天然の宝石以上に美しいものを作ったとしても、希少性では太刀打ちできない。

蓄光セラミックス宝石が消費者の目に止まる、あるいは、消費者の記憶に残るためには、自由に作れるという利点を活かし、積極的な演出をして、天然の宝石と差別化を図るべきと考え、その方法を検討した。

3. 実験結果及び考察

3.1 新規な蓄光セラミックス宝石の開発

新規な蓄光セラミックス宝石を作るため、人気のある宝石の一つであるパライバ・トルマリンを目標とした。

一般的なトルマリンは多くの色彩を持つ宝石としてよく知られているが、1987年にブラジル、パライバ州で発見されたパライバ・トルマリンは、他の宝石にない澄み切ったネオン・ブルーの発色と希少性が魅力であり、極めて高価な宝石であるが、非常に人気が高い。

このパライバ・トルマリンを目標に、リサイクルの観点から酒瓶などの色付廃棄ガラスを利用することとし、実現を試みた。

その結果、日本フリット株式会社のフリット CY5401を主成分として使用し、蛍光剤或いは蓄光剤、瓶ガラスなどを荒く砕いたものを添加し、水分を加えて泥漿としたものを基本配合として800℃で焼成し、蓄光セラミックス宝石（**図1**）を作製することに成功した。

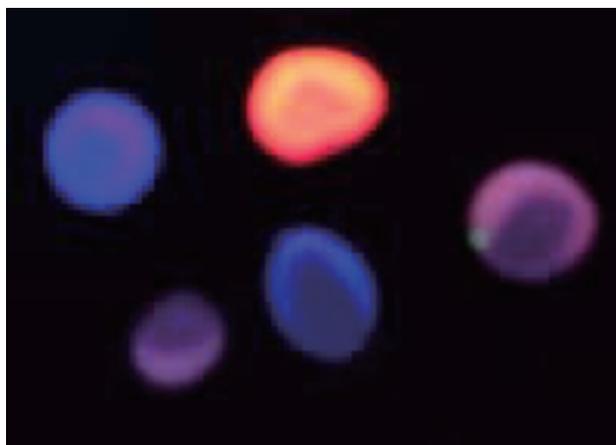


図1 蓄光セラミックス宝石

この蓄光セラミックス宝石を用い、ステンレス工芸作家の橋寛憲氏の協力のもと、コラボレーション製品として、蓄光セラミックス宝石を使った指輪（図 2）、ティアアラ（図 3）、ブレスレット（図 4）を完成させた。



図 2 蓄光セラミックス宝石を用いた指輪

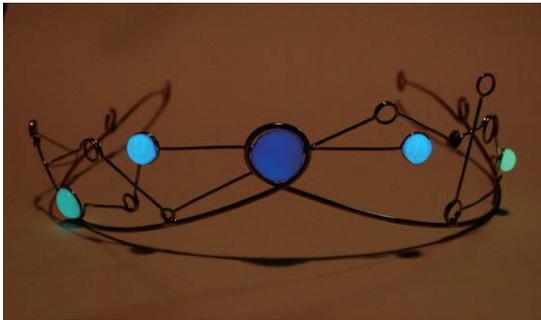


図 3 蓄光セラミックス宝石を用いたティアアラ
(上、周囲暗 下、周囲明)



図 4 蓄光セラミックス宝石を用いたブレスレット

また、表面を適度なマット状に仕上げることにより、鉛筆で書き消しができる「夢見メモ」（図 5）も試作した。これは蓄光性能を利用し、目覚めたときにふと浮かんだアイデアを、暗い中ですぐに書き留めるためのものである。

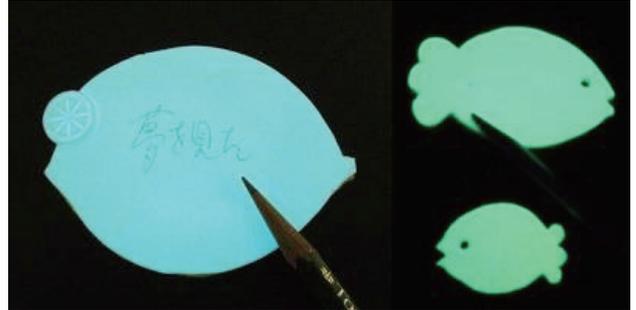


図 5 夢見メモ

4. 結び

新規な蓄光セラミックス宝石を作るため、プライベート・トルマリンのネオン・ブルーの発色を目標に、フリットを主成分とし、蛍光剤或いは蓄光剤、色付廃棄ガラスを用いて泥漿としたものを 800℃で焼成し、蓄光セラミックス宝石を作製することに成功した。これを用いて、ステンレス工芸作家の橋寛憲氏に協力を仰ぎ、コラボレーション製品として、蓄光セラミックス宝石を使ったティアアラ、ブレスレットなどを完成させた。

また、寝ているときに浮かんだ夢やアイデアを書き留めるための、目に優しいツール「夢見メモ」を試作した。これは鉛筆で書け、擦れば消せるため、何度も使えるのが特徴である。表面を適度なマット状態にしたのがポイントである。

謝辞

本研究における蓄光セラミックス宝石を用いた試作品のデザイン及び制作にご協力いただいたステンレス工芸作家の橋寛憲氏に深く御礼申し上げます。